



第3回対話型ワークショップ

ストレスフリー社会を実現する、
コミュニケーションツールをデザインしよう！



イノベーションのツボは対話にある！！



主旨

信州大学では、イノベーションを創出するために、多様な参加者による全3回からなる対話型ワークショップ(対話型WS)を実施しております。2回にわたる対話型WSの結果、『ストレスフリー社会を実現する生体反応を活用したコミュニケーション・ツール』が提案されました。第3回対話型WSでは、既存の技術的背景をふまえ、将来ニーズに合致した新しいコミュニケーションツールを具体化します。

◆ 対話型ワークショップとは？ ◆

対話型ワークショップとは、参加者同士の対話を通じて、新たなアイデアの創出や課題解決を行うワークショップです。多様な参加者の知識や経験に対話に取り込み、新しい価値やこれまでの価値を変えるものを創造します。

第3回目対話型ワークショップ

平成26年2月14日(金)、第3回対話型ワークショップ「ストレスフリー社会を実現する、コミュニケーションツールをデザインしよう」を開催しました。将来ニーズに合致する生体反応を活用した新しいコミュニケーションツールを具体化していただきました。

ワークショップ参加者22名
ファシリテーター
土井達也 氏(信州大学URA室)
鳥山香織 氏(信州大学URA室)

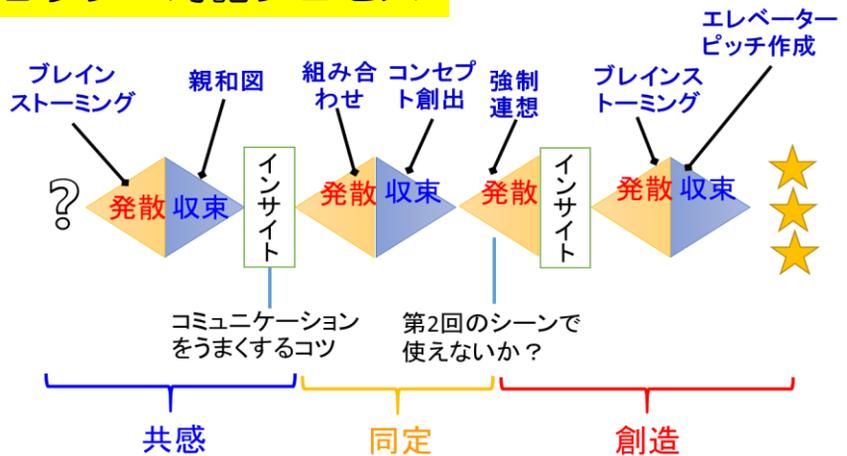
日時:平成26年2月14日(金)13:30-17:30(13:00受付開始)
場所:信州大学本部キャンパス 信州地域技術メディカル展開センター(CSMIT)1階103会議室
主催:信州大学産学官連携推進本部
協力:特定非営利活動法人SCOP、長野県デザイン振興協会
対象:企業関係者、大学教職員、学生、地域の皆様、行政関係者

プログラム

13:00	受付開始
13:30	オープニング・趣旨説明
14:00	第一部 生体反応を活用したコミュニケーションツール創出
15:30	休憩
15:45	第二部 実現に向けた技術・市場課題の抽出
17:00	まとめ・発表
17:20	クロージング
17:30	解散

第3回対話型ワークショップ 対話プロセス

目的:
ストレスフリーな社会を実現するために
イノベティブなコミュニケーションツールを提案する。



第3回目対話型ワークショップ 成果発表！！！！

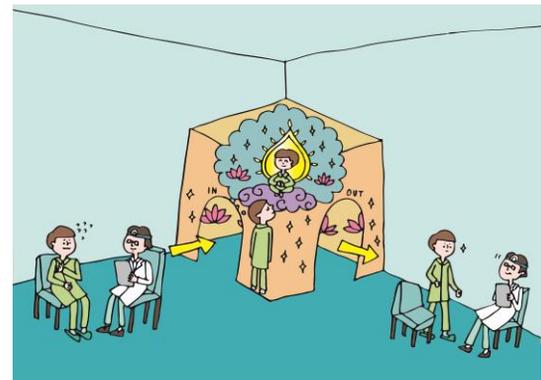
A-team 製品・サービス名 『Anysee-縁-』

1. 気まずさを感じし、リラックス効果を出力するスマホアプリと付属ケース。
2. 気まずい人とのコミュニケーションを円滑に進めることができます。
3. 声のトーンを感じし、気まずさを測定し、結果に合わせてスマホから映像、音源、さらには香りまで出力できます！アプリ付属のケースでお好きな香りを選べます！
4. 今まで避けてきた苦手な人...打ち解けると実はすごく大切な出会いになることも。そんな出会いに気づけるよう、『Anysee-縁-』がサポートします！！



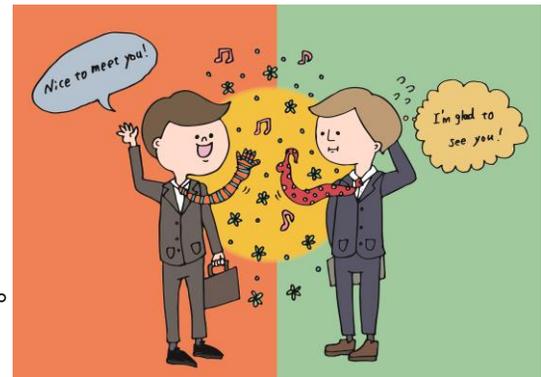
B-team 製品・サービス名 『サトリエ』

1. 患者さんがバッドニュースを受け入れやすい状態をつくる空間デザイン(設備)です。
2. 例えばがんや余命の告知の際、本人が受容できないと、その後の治療や緩和ケアに悪影響を与えてしまいます。
3. 「How to tell」⇒「How to receive」脳波検出→入室。
4. 患者さん家族とのトラブル↓
患者の満足度・QOLが↑
医療者のストレスが↓
研修費用↓



C-team 製品・サービス名 『トキメキtie』

1. この製品はあなたの、そしてあなたの周りにいる人々の楽しいこと一歩手前のわくわく感を香り、BGM、ネクタイの色で伝えてくれます。
2. 喜びやトキメキ、期待、ワクワク感を感じて反応します。コミュニケーションにおける楽しさの共有をお助けします。
3. 感情表現が苦手でも、簡単に喜びを表現し、受け取ることができます。
4. この商品は、ユーザーが多ければ多い程効果を発揮します。
5. いつでもどこでも様々なシーンで違和感なく利用可能！！
6. あなたのコミュニケーションをより豊かにしませんか？



D-team 製品・サービス名 『コミュ・アバター』

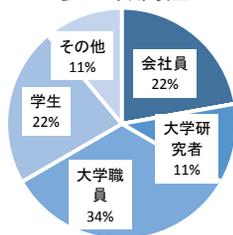
1. バックグラウンドの異なる人とのコミュニケーションに違和感を感じたことはありませんか？この製品はそんな問題を解決する製品です。
2. 外国の人、世代の異なる人、地域の異なる人との会話では言語の違い、表現の違い、常識の違いでうまくコミュニケーションをとることができません。
3. アバターがあなたのバックグラウンドを読み取り、解りやすい言葉とキュートな動きで表現します！さらに、あなたの行動パターンから感情を読みとり、相手に伝えます。
4. ディープコミュニケーションをしたいすべての人に、この製品をお薦めします。



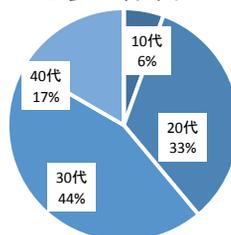
● 参加者へのアンケート結果 ●

- アンケート配布数：22名
- 回収数(回答率)：18名(81.8%)

1.参加者属性



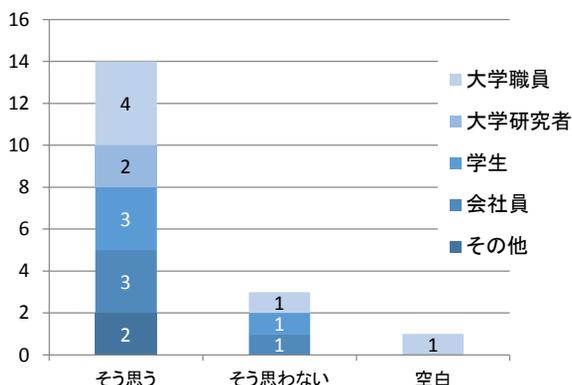
2.参加者年代



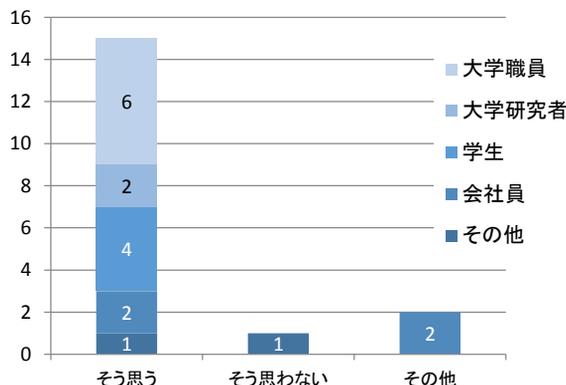
3.ワークショップ経験



Q 今回得られた気づき(インサイト)は今後の日常生活や仕事等で活かそうですか？



Q 今回得られたアイデアはイノベティブだと思いますか？



● 対話型ワークショップに参加してのご感想・ご意見 ●

自分の考えをはるかにこえたアイデアがこんなに出るとは思わなかった。(多様な意見の共有の重要性に気付いた)
(10代・女性・学生)

「心地良い会話」というテーマで、4チーム共に違うプロセスで素晴らしいプレゼンが創出されたことに驚きました。
(30代・男性・会社員)

暴走から新しいアイデアが生まれるのかと感じた
(30代・男性・会社員)



- 発行・お問合せ -

信州大学 産学官連携推進本部 リサーチ・アドミニストレーション(URA)室 (担当: 鳥山・土井)

Tel:0263-37-3530

Fax:0263-37-3425

E-mail: info_ura@shinshu-u.ac.jp

HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/project/innovation-taiwa/>

Facebook: 『信州大学イノベーション対話プログラム』

<https://www.facebook.com/shinshu.university.innovationtaiwa>

発行日: 平成26年 3月25日

Facebook

